世界の主な大規模火災

1970年以降に世界各地で発生した大規模な火災について、Wikipediaの「火災の年表」などを参考に類型別に整理した。火災の規模としては人的被害だけでなく物的被害も重要と思われるが、的確な資料が見当たらないことから死者数を基準とした。その際、1970年から2000年までは死者数30人以上を、2001年以降については死者数10人以上を基準とした。これはハード、ソフト両面にわたる防火・安全対策の進展により、火災一件当たりの死者数が減少の傾向にあることに配慮したためである。ただ、発展途上国などの比較的規模の小さな大規模火災の中には日本で報道されない火災も少なくないのではないかと思われる。

また、類型については以下のような14分類とした。個別の火災が、必ずしもこの類型にピタリと当てはまるわけではないが、一応の類型化を行うことにより、例えば、新たに発生した大規模火災と過去に発生した類似の大規模火災との比較等が容易に行えるのではないか思われる。

①デパート・ショッピングセンター等での火災　②ホテル等での火災　③ナイトクラブ、ディスコ、宴会場等での火災
④市民会館・劇場・映画館・興行場等での火災　⑤雑居ビル等での火災　⑥病院、社会福祉施設等での火災
⑦高層マンション、オフィスビル等での火災　⑧工場等での火災　⑨船舶・鉄道等での火災
⑩トンネル・地下鉄等での火災　⑪市街地火災　⑫山林火災　⑬爆発事故等による火災　⑭その他

1 デパート・ショッピングセンター等での火災

2017年12月23日	ショッピングモール火災（フィリピン、ダバオ市）	死者 37人
2004年８月１日	イクア・ボラーニョス大火災（パラグアイ、アスンシオン市）	死者 394人
	パラグアイ、アスンシオン市内大型スーパーでの火災、火災発生時に商品の持ち逃げを防止するため出口の扉が閉められたため、被害が拡大した。	
1996年３月28日	ボゴール市ショッピングモール火災（インドネシア）	死者 78人
1973年11月29日	大洋デパート火災（日本、熊本市）	死者 104人
	日本のビル火災としては、前年の千日デパート火災（実態は雑居ビル）に次ぐ大惨事となった。階段踊り場に積まれていた段ボールから出火、防火設備の不備等から火災が拡大した。両火災を踏まえ、「既存不適格」建物の取り扱いなどを含め、消防法、建築基準法の大改正が行われた。	

2 ホテル等での火災

1986年12月31日	サンファンデュポンプラザホテル火災（プエルトルコ）	死者 98人
	放火が原因。スプリンクラーは未設置だった。	
1982年２月８日	ホテルニュージャパン火災（日本、東京）	死者 32人
	宿泊客の寝たばこが原因。経費削減のためスプリンクラーが未設置など、防火・安全対策の不備により被害が拡大した。	
1980年11月21日	MGMグランドホテル火災（アメリカ、ラスベガス市）	死者 85人
	オープン時、世界最大のホテル。従業員の休憩室付近から出火し、炎はホテル内のカジノを通り抜け、煙が階段、非常口、エレベーター筒を伝わって高層階に充満した。死者は85人にも達し、死者の多くが高層階の宿泊者だった。多くの人が屋上からヘリコプターで救出されたが、かえって危険だとの指摘がある。	
1980年11月20日	川治プリンスホテル火災（日本、栃木）	死者 45人
	増改築が繰り返された建物で、火災発見時に適切な避難行動がとられなかったため被害が拡大した。この火災を契機に翌年、適マーク制度が設けられた。	
1979年７月12日	ホテル火災（スペイン、サラゴサ市）	死者 80人
1971年12月25日	ホテル「大然閣」火災（韓国、ソウル市）	死者 163人
	地上22階、地下２階建ての高層ホテルで１階のコーヒーショップのLPガスが爆発し、可燃性の内壁に延焼し、死者163人にも及ぶ大惨事となった。死者の中には日本人10人も含まれている。	

3 ナイトクラブ、ディスコ、宴会場等での火災

2016年12月３日	ダンスパーティ会場（倉庫）火災（アメリカ、オークランド市）	死者 36人
	倉庫２階のダンスパーティ会場での火災、スプリンクラー未設置だった。	
2013年１月27日	サンタマリアナイトクラブ火災（ブラジル、サンタマリア市）	死者 239人
	演出用の花火が引火、防音のために貼られていた天井のポリウレタンフォームから発生した有毒ガスのため被害が拡大した。犠牲者の９割は煙を吸ったためとみられている。	
2009年12月５日	ナイトクラブ火災（ロシア、ペルミ市）	死者 156人
	ロシア中部のペルミ市のナイトクラブで演出用の打ち上げ花火が爆発、火災が発生。	
2009年１月１日	ナイトクラブ火災（タイ、バンコク）	死者 60人
	バンコクのナイトクラブ「サンティカ」で演出用の花火がカーテンに引火、脱出口が１ヶ所しかなかったため新年を祝っていた客に大きな被害が発生した。	

（続く）

3 ナイトクラブ、ディスコ、宴会場等での火災（続き）

2008年９月８日	深圳舞王倶楽部火災（中国、深圳）	死者 43人
	演出の花火から引火、脱出口が細長く逃げ遅れた客に被害。	
2004年12月30日	ナイトクラブ火災（アルゼンチン、ブエノスアイレス市）	死者 194人
	ナイトクラブ「リパブリカ・クロマニオン」で、演出用の花火から引火したと言われている。	
2003年２月20日	ナイトクラブ火災（アメリカ、ロードアイランド州）	死者 100人
	ナイトクラブ「ザ・ステーション」のショーの公演中に演出用の花火がカーテンに引火した。	
2000年12月25日	洛陽クリスマス火災（中国、河南省洛陽市）	死者 309人
	商業ビル「東都商厦」で出火、４階に延焼し「東都ディスコ」の客などに被害が発生した。	
1996年３月18日	ケソン市ディスコ火災（フィリピン）	死者 162人
	フィリピン史上、最悪の火災事故と言われている。非常口が閉まっていたために大惨事となった。	
1995年12月23日	結婚式場テント火災（インド、ハリヤーナ州）	死者 400人以上
1994年11月27日	ダンスホール火災（中国、遼寧省阜新市）	死者 233人
1990年３月25日	ディスコ火災（アメリカ、ニューヨーク市）	死者 87人
	クラブ「ハッピーランド・ソーシャルクラブ」での火災、放火が原因。非常口がなく、店の出入り口が１ヶ所のみ、スプリンクラー未設置などによる。	
1987年12月17日	ナイトクラブ火災（スペイン、マドリード市）	死者 82人
1982年12月17日	ディスコ火災（スペイン、マドリード市）	死者 78人
1977年５月28日	サパークラブ火災（アメリカ、ケンタッキー州）	死者 164人
	「ビバリーヒルズ・サパークラブ」で出火し、ダンスホールが炎上	
1976年１月３日	ディスコ火災（アイルランド、ダブリン市）	死者 49人
1970年11月１日	クラブ火災（フランス、イゼール県）	死者 146人

4 市民会館・劇場・映画館・興行場等での火災

2018年３月25日	ケメロヴォショッピングセンター火災（ロシア、ケメロヴォ市）	死者 64人
	シベリア西部のケメロヴォ市のショッピングセンターで発生した火災。死者64人の多くは同ショッピングセンター内にある映画館の観客で、そのうち41人は子どもであった。火災報知機システムの故障が放置されていたこともあるが、チケットを買わない客が入らないよう映画館のドアに鍵がかけられていたため、このような痛ましい結果になった。	
1999年９月24日	ジョグジャカルタ市シネマコンプレックス火災（インドネシア、ジョグジャカルタ市）	死者 75人
1994年12月８日	カラマイ市観劇会場火災（中国、新疆ウィグル自治区）	死者 325人
	ウィグル自治区カラマイ市の観劇会場（克拉瑪依友誼館）での火災。非常口が閉鎖されており、観劇中の学校の生徒、教師の避難が妨げられ大惨事となった。	
1985年５月11日	サッカー場火災（イギリス、ブラッドフォード市）	死者 56人
	建設から74年経過のサッカースタジアムで観客のタバコの火の不始末から出火し、その火がメインスタンド上部の屋根に燃え移り被害が拡大した。被害者の多くは高齢者と子どもだった。	
1978年８月19日	映画館放火事件（イラン、アーバーダーン市）	死者 少なくとも470人
	アーバーダーン市の映画館（シネマ レックス）が放火により全焼	
1972年12月１日	ソウル市市民会館火災（韓国）	死者 51人
	MBC歌謡祭開催中の舞台から漏電により出火。	

5 雑居ビル等での火災

2017年12月21日	堤川スポーツクラブビル火災（韓国、忠清北道、堤川市）	死者 29人
	韓国忠清北道堤川市の９階建ての雑居ビル１階で火災が発生し、スプリンクラーが作動しなかったこと、燃えやすい外壁材が使われていたことなどから被害が拡大した。	
2008年10月１日	大阪個室ビデオ店放火事件（日本、大阪市）	死者 16人
	７階建て雑居ビル１階の店舗で放火があり、防火管理体制の不備から被害が拡大した。被害者の死因は一酸化炭素中毒。	
2001年９月１日	歌舞伎町ビル火災（日本、東京）	死者 44人
	新宿歌舞伎町の雑居ビル火災。ビル内の避難通路の確保が不十分であるなど、防火管理体制の不備が被害を拡大させた。	
1999年10月30日	仁川広域市仁峴洞居酒屋火災（韓国、仁川市）	死者 57人
	内部修理中だった地下のカラオケ店から出火、５階のビヤホールにいた客が被災した。	
1974年11月３日	ソウル市雑居ビル火災（韓国、ソウル市）	死者 90人
	ソウル市清凉里駅隣接の雑居ビル（大旺コーナー）で火災。簡易宿泊施設やナイトクラブの客が犠牲者となった。同ビルでは1972年、1975年にも火災が発生した。	
1972年５月13日	千日デパート火災（日本、大阪市）	死者 118人
	デパートと名はついているが、実態は雑居ビル。日本のビル火災史上、最悪の惨事と言われている。死因の大半は一酸化炭素中毒。翌年、発生した熊本の大洋デパート火災をも踏まえ、消防法、建築基準法が大改正された。	

6 病院、社会福祉施設等での火災

2018年１月31日	生活保護者自立支援施設火災（日本、札幌市）	死者 11人
	生活保護受給者らの自立支援を掲げる「そしあるハイム」で火災が発生し、建物が全焼した。この火事により、高齢の入所者など11人が死亡した。	
2018年１月26日	密陽世宗病院火災（韓国、慶尚南道密陽市）	死者 37人
	韓国慶尚南道密陽市の世宗病院の１階応急室から出火、煙が中央階段を通じて上階へ急速に広がり、高齢の介護入院患者など37人が死亡した。	
2013年10月11日	福岡市整形外科医院火災（日本、福岡市）	死者 10人
	福岡市の整形外科医院で出火、初期消火の失敗、防火管理の不徹底により高齢の入院患者など10人が死亡した。	
2009年３月20日	老人ホーム火災（日本、群馬県渋川市）	死者 10人
	群馬県渋川市の無届有料老人ホーム「静養ホームたまゆら」で発災。入居者10人が死亡した。いわゆる貧困ビジネスが話題となった。	

7 高層マンション、オフィスビル等での火災

2017年８月４日	超高層マンション火災（アラブ首長国連邦、ドバイ）	死者 なし
	79階建ての超高層マンション「ザ・トーチ」で2015年に引き続き火災が発生した。火は外壁を伝わって炎上したが、死者、被害者はなかった。	
2017年６月14日	グレンフェルタワー火災（イギリス、ロンドン）	死者 78人
	グレンフェルタワーは1974年に建てられた24階建ての公営住宅である。冷蔵庫が火元になったが、サンドウィッチパネルと言われる外壁の断熱材が急激に燃え上がり、建物全体が火に包まれた。階段が１ヶ所で他に避難経路がなかったことも災いした。	
2017年１月19日	プラスコ・ビル火災（イラン、テヘラン）	死者 20人
	建築後53年を経過した17階建ての商業ビルで火災が発生し、ビルの倒壊により、消火作業中の消防士20名が殉職した。	
2015年５月21日	超高層マンション火災（アラブ首長国連邦、ドバイ）	死者 なし
	79階建ての超高層マンションの50階部分から出火。火が外壁を伝わって炎上した。死者、負傷者はなかった。また、ドバイでは2016年12月31日に63階建てのホテル「アドレスダウンタウンドバイ」でも火災が発生しており、この火事では負傷者が16人となっている。	
2010年11月15日	上海マンション火災（中国、上海）	死者 58人
	1997年に竣工した28階建てのマンション。当日は外壁改修中で竹の足場が組まれ、ナイロンの網が外壁を囲っていた。これに溶接作業の火花が引火し火災が発生、惨事となった。	
1974年２月１日	ジョエルマビル火災（ブラジル、サンパウロ市）	死者 227人
	ジョエルマビルは1972年に竣工した25階建てのオフィスビル。12階のエアコン室外機から出火し、防火設備が不十分で、非常出口もなかったため死者227人を出す大惨事となった。	

8 工場等での火災

2013年６月３日	吉林徳恵鶏肉加工工場火災（中国、吉林市）	死者 121人以上
	吉林省長春市の鶏肉加工工場で液化アンモニアが漏出し火花が引火して爆発、火災となった。作業場の門が施錠されていたため死者121人以上という大惨事となった。	
2012年11月24日	ダッカ縫製工場火災（バングラデシュ、ダッカ市）	死者 112人以上
	ダッカ近郊の8階建てのタズリーン縫製工場での火災。防火・安全対策が不備なことに加え、工場が中層ビルという同国特有の事情から被害が拡大した。放火が出火の原因と言われている。	
2012年９月11日	カラチ市縫製工場火災（パキスタン、カラチ市）	死者 295人
	当初は失火が原因とみられていたが、犯罪組織による放火と判明。火災に伴う有毒ガスの発生に加え、工場の扉が施錠され、窓に格子がはめられていたため295人もが死亡する大惨事となった。	
2012年９月11日	ラホール工場火災（パキスタン、ラホール市）	死者 25人
	カラチの縫製工場火災と同じ日に発生	
1993年５月10日	バンコクおもちゃ工場（ケーダー社）火災（タイ、バンコク）	死者 188人
	プラスチック模型などで知られるケーダー社のタイ、バンコク工場で火災が発生、模型材料のプラスチックなどに引火し急激に火災が拡大したが、出入り口が封鎖されていた上に、窓に鉄格子がはめられていたため大惨事となった。	

9 船舶・鉄道等での火災

2018年１月６日	上海沖タンカー火災（東シナ海）	死者 32人
	パナマ船籍、イラン政府所有の石油タンカー、サーンチ号が上海沖で貨物船と衝突し、満載（13万6,000トン）の積み荷の天然ガス・コンデンセートが炎上、その後、同船は約１週間、燃えながら漂流し、１月14日、沈没した。同船の船員32人全員が死亡した。	
2016年７月30日	熱気球火災墜落事故（アメリカ、テキサス州）	死者 16人
	テキサス州オースティン近郊で観光遊覧用の熱気球が送電線に接触し火災を発生させ墜落した。	
2013年10月３日	ランペドゥーザ島難民船火災沈没事故（地中海）	死者 360人以上
	エンジントラブルを起こした難民船が近くの船に急を知らせようと毛布に火をつけしたところ、その火がガソリンに引火し、火災を起こして沈没した。犠牲者の正確な数は分からないが、死者360人以上である。	
2013年２月26日	ルクソール熱気球墜落事故（エジプト、ルクソール）	死者 19人
	観光用熱気球の火災墜落事故。着陸寸前に火災が発生した。被害者の中には日本人４人も含まれている。	
2002年２月20日	列車火災事故（エジプト、カイロ市）	死者 373人
	カイロ発アスワン行きの11両編成の列車で、電気系統のショートにより火災が発生。運転手は火災に気づかず、そのまま約７㎞走行、結局、11両中７両が全焼した。列車の窓には格子がはめられていた。また、列車には火災報知器、消火器が備え付けてなかった。	
1987年12月20日	貨客船ドニャ・パス号衝突・炎上事故（フィリピン、ミンドロ島沖）	死者 1,575人以上
	貨客船ドニャ・パス号がガソリンを積んだ小型タンカーと衝突し炎上した。この事故で少なくとも1,575人の死者が発生した（海運会社の発表では4,375人）。１隻当たりの犠牲者数ではタイタニック号を上回る。なお、ドニャ・パス号は日本の貨客船「ひめゆり丸」をフィリピンの国内航路向けに改造し、就航させていた。	
1974年11月９日	第十雄洋丸事件（日本、東京湾）	死者 33人
	合計５万7,000トンのプロパン、ブタン、ナフサを積んだ日本船籍の第十雄洋丸が東京湾中ノ瀬航路でリベリア船籍の貨物船パシフィック・アレス号と衝突・炎上した。この事故で両船合わせて33人の犠牲者が発生した。第十雄洋丸は、その後も炎上を続け、東京湾内を漂流していたが、火勢が弱まったところを太平洋上に曳航され、11月28日、海上自衛隊によって撃沈処分された。	

10 トンネル・地下鉄等での火災

2003年２月18日	大邱地下鉄放火事件（韓国、大邱市）	死者 192人
	大邱市の中央部にある地下鉄中央路駅で乗客の放火により瞬く間に車両が炎上、そこへ隣接する反対車線に対向車両が進入し、この車両にも引火し大惨事となった。車両に可燃性の素材が使われていたことが原因とされているが、死者の約８割はこの対向車線に進入した車両で発生した。これは対向車線の車両の運転手がパニック状態になり、ドアを閉めたまま逃げ出してしまったことに加え、乗客自身もバイアスにより速やかな避難行動をとらなかったためだと言われている。	
2000年11月11日	ケーブルカー火災事故（オーストリア）	死者 155人
	ケーブルカーは路線距離3,900mで、そのうち3,300mがトンネル。トンネル内で最後尾の車両の油圧系統から漏れた油から出火、火が広がり、車両から脱出した多くの乗客が最後尾の車両の炎を避け、トンネル上方に避難しようとしたが、トンネル内が煙突のようになり、上に向かう有毒ガスと一酸化炭素に巻き込まれ惨事となった。	
1995年10月28日	バクー地下鉄火災（アゼルバイジャン、バクー市）	死者 289人
	土曜夕方のラッシュ時に電気系統の故障により出火。犠牲者の死因の大半は車両内での圧死であり、犠牲者数は地下鉄事故として最多。	
1982年11月３日	サラン峠トンネル火災（アフガニスタン）	死者 176人（一説には2,700人）
	サラン峠トンネルはカブール北方に位置し、標高3,363m、世界最高地に建設されたトンネルである。アフガニスタン紛争中の出来事であり、実態は不明だが、交通渋滞による一酸化炭素中毒で176人が死亡したという説（旧ソ連側の公式発表）と実際は旧ソ連軍の燃料積載車がトンネル内で爆発、次々にトンネル内の他の車両に引火し、2,700人が犠牲者になったという説もある。	
1972年11月６日	北陸トンネル火災事故（日本、福井）	死者 30人
	北陸本線、北陸トンネル（13,870m）内で発生した列車火災である。深夜、食堂車の喫煙室椅子下から出火。停電と火災による煙がひどく、避難が困難を極めて被害が拡大した。死者30人の内、29人が一酸化炭素中毒による。当時、国鉄は電化したトンネル内で火災は起こらないと考え、トンネルに排煙設備や消火設備を設けていなかった。	

11 市街地火災

2016年12月22日	糸魚川大火（日本、新潟）	焼損棟数 約150棟
	市内のラーメン店から出火。おりからの強風にあおられ火事が拡大した。	
1976年10月29日	酒田大火（日本、山形）	焼損棟数 1,774棟
	映画館のボイラー室から出火。西寄りの強風により飛び火や火の粉が発生し、大火となった。死者は１人だった。その一方で、火の粉で目を負傷する消防士や消防団員が続出した。	

12 山林火災

2017年10月８日	カリフォルニア州山林火災（アメリカ）	死者 40人
	カリフォルニア州北部で発生。焼損面積は900㎢、住宅・店舗あわせて3,500棟が全焼した。	
2014年４月12日～16日	チリ、バルパライソの山火事	死者 15人
	バルパライソはサンティアゴから60kmほど離れた港町。周辺では大規模な山火事がたびたび発生している。2017年１月にも4,500㎢が焼ける大規模な山火事が発生している。	
2009年２月７日～３月14日	大規模森林火災（オーストラリア）	死者 175人
	ビクトリア州を中心に同時多発的に発生した大規模な森林火災で、焼損面積は4,500㎢以上、死者は合計175人にも上った。オーストラリア史上、最悪・最大の森林火災。	

（続く）

12 山林火災（続き）

2007年６月～９月	山林火災（ギリシャ）	死者 84人
	2007年、ヨーロッパ南東部は記録的な熱波と高温に見舞われた。６月から９月にかけギリシャ全土で約3,000件の山火事が発生した。８月下旬には山火事が市街地にまで及び多数の死者が発生している。	
1983年２月	森林火災（オーストラリア）	死者 75人
	オーストラリア、ビクトリア州、サウス・オーストラリア州で同時多発的に発生した。焼損面積は東京都の面積とほぼ同じ2,000㎢。死者の中には複数の消防士も含まれている。	

13 爆発事故等による火災

2017年６月25日	タンクローリー横転事故火災（パキスタン）	死者 149人以上
	横転したタンクローリーからガソリンを持ち去ろうと住民が集まったところで漏れたガソリンが引火爆発した。少なくとも149人が死亡。	
2015年８月15日	天津浜海新地区倉庫爆発事故（中国、天津市）	死者 165人
	天津市浜海新区にある化学薬品倉庫での大規模な爆発事故である。危険物処理に充分な知識を持たない消防隊が発火したコンテナに放水したことにより２次被害が発生した。死者165人、行方不明者は８人。	
2013年４月17日	テキサス州肥料工場爆発事故（アメリカ、テキサス州）	死者 15人
	化学肥料会社ウェスト・ファーティライザー社の工場の爆発事故。工場には爆発防護壁が設けられておらず、この爆発事故により近くの集合住宅、学校、社会福祉施設などが炎上したり損壊したりした。死者15人のほか負傷者は300人以上にのぼった。事故の原因は放火もしくは故意によるものと断定されている。	
2012年７月12日	タンクローリー横転炎上事故（ナイジェリア、リバース州）	死者 100人以上
	ナイジェリア南部のリバース州で横転したタンクローリーが爆発、漏れた燃料をすくい取ろうとして集まっていた住民が巻き込まれ、100人以上が死亡した。	
2009年７月12日	タンクローリー衝突火災事故（ケニア、リフトバレー州）	死者 110人以上
	事故で横転したタンクローリーから流出したガソリンを持ち帰ろうと集まった住民が、発生した火災で死亡。犠牲者は110人以上。	
2009年１月31日	原油漏えい引火爆発事故（ケニア、モロ市）	死者 113人以上
	漏れていた原油に引火爆発、113人以上が死亡。	
2007年12月25日	原油パイプライン爆発事故（ナイジェリア、ラゴス市）	死者 45人以上
	パイプラインから流出した原油が引火爆発し、集まっていた住民ら45人以上が死亡。	
2006年12月26日	ガソリン窃盗関連火災（ナイジェリア、ラゴス市）	死者 250人以上
	ラゴス郊外のパイプラインでガソリンの窃盗があり、便乗した住民が発生した火災に巻き込まれ、250人以上が死亡した。	
2002年１月27日	武器庫爆発火災事故（ナイジェリア、ラゴス市）	死者 1,100人以上
	ナイジェリア最大の都市であるラゴスにある武器庫で爆発事故から火災が発生し、火災や避難時の混乱で1,100人以上が死亡した。	
1996年	ロケット墜落爆発事故（中国、四川省）	死者 56人
	四川省の西昌衛星発射センターでロケット打ち上げに失敗、西昌市街地に落下して爆発した。この事故で、中国政府の発表では死者は56人とされているが、国外メディアの推測では死者は数百人ともいわれている。	

（続く）

13 爆発事故等による火災（続き）

1995年４月28日	大邱上仁洞ガス爆発事故（韓国、大邱市）	死者 102人
	デパート工事現場で都市ガスの管が破損され、そのガスが近くの地下鉄工事中の建設現場に充満し爆発した。	
1992年４月22日	グアダラハラ爆発事故（メキシコ、グアダラハラ市）	死者 206人
	メキシコ第二の都市、グアダラハラ市で、精油所のガソリンが漏れて下水道に流入し、それに引火、爆発し大惨事となった。	
1978年７月11日	ロス・アルファケス大惨事（スペイン、カタルーニャ州）	死者 217人
	スペイン、カタルーニャ州アルカナー市近郊のキャンプ場付近で、プロピレンを満載したタンクローリーが突然、爆発炎上し、焼失面積はキャンプ場の90%にも及んだ。この爆発炎上で、キャンプ場に来ていた客など217人が焼死する大惨事となった。被害者のほとんどはドイツ人、フランス人などの外国人だった。	
1970年４月８日	天六ガス爆発事故（日本、大阪）	死者 79人
	大阪市営地下鉄の工事現場で、漏れた都市ガスに引火、爆発して大惨事となった。犠牲者の中には好奇心で集まってきた一般住民も少なくなかった。	

14 その他

2017年12月28日	アパート火災（アメリカ、ニューヨーク）	死者 12人
	５階建てのアパートで幼児の火遊びにより火災が発生。	
2017年２月16日～２月28日	アスクル基幹物流センター火災（日本、埼玉）	死者 なし
	埼玉県三芳町にあるオフィス用品の通販大手アスクル社の基幹物流センターで大規模な火災が発生し鎮火までに12日を要し、人的被害はなかったものの焼損面積は約４万5,000㎡にも及んだ。	
2015年５月17日	簡易宿泊所火災（日本、川崎市）	死者 11人
	川崎市内の木造簡易宿泊所での火災。２棟あわせて約1,000㎡が全焼した。宿泊者の９割は生活保護を受けていた。	
2013年３月22日	難民キャンプ火災（タイ、メーホンソン県）	死者 37人
	ビルマ系カレン族の難民キャンプで調理中に出火し、おりからの強風で火災が拡大した。	
2012年２月14日	刑務所火災（ホンジュラス、コマヤグア）	死者 360人
	ホンジュラス中部にあるコマヤグアの刑務所で漏電もしくは放火により大規模な火災が発生し、受刑者に大きな被害が出た。	
2001年５月５日	作業員宿舎火災（日本、千葉県四街道市）	死者 11人
	建築解体工事業の自宅兼作業員宿舎が全焼し、11人が死亡した。宿舎は増改築を繰り返し、出入り口は１ヶ所しかなかった。	
1984年11月16日	世田谷局ケーブル火災（日本、東京）	死者 なし
	電電公社世田谷局で増設中の電話ケーブルから出火。この火事で人的被害はなかったが、世田谷局管内の電話回線や都市銀行のオンラインが不通になるなどの被害が発生した。	

〔参考〕死者100人以上の世界の大火

上述の大規模火災の内、死者の数が1,000人を超える大火を以下に年代順に再掲した。40件に上る。類型別に見ると、最も多いのが、「ナイトクラブ、ディスコ、宴会場等での火災」と「爆発事故等による火災」でそれぞれ10件となっている。これに次いで多いのが「トンネル、地下鉄等での火災」と「工場等での火災」で各４件となっている。これに「船舶・鉄道等での火災」が３件で続いている。

2015年８月15日	天津浜海新地区倉庫爆発事故（中国、天津市）	死者 165人
2013年10月３日	ランペドゥーザ島難民船火災沈没事故（地中海）	死者 360人以上
2013年６月３日	吉林徳恵鶏肉加工工場火災（中国、吉林市）	死者 121人以上
2013年１月27日	サンタマリアナイトクラブ火災（ブラジル、サンタマリア市）	死者 239人
2012年11月24日	ダッカ縫製工場火災（バングラデシュ、ダッカ市）	死者 112人
2012年９月11日	カラチ市縫製工場火災（パキスタン、カラチ市）	死者 295人
2012年７月12日	タンクローリー横転炎上事故（ナイジェリア、リバース州）	死者 100人以上
2012年２月14日	刑務所火災（ホンジュラス、コマヤグア）	死者 360人
2009年12月５日	ナイトクラブ火災（ロシア、ペルミ市）	死者 156人
2009年７月12日	タンクローリー衝突火災事故（ケニア、リフトバレー州）	死者 110人以上
2009年２月～３月	大規模森林火災（オーストラリア）	死者 175人
2009年１月31日	原油漏えい引火爆発事故（ケニア、モロ市）	死者 113人以上
2006年12月26日	ガソリン窃盗関連火災（ナイジェリア、ラゴス市）	死者 250人以上
2004年12月30日	ナイトクラブ火災（アルゼンチン、ブエノスアイレス市）	死者 194人
2004年８月１日	イクア・ボラーニョス大火災（パラグアイ、アスンシオン市）	死者 394人
2003年２月20日	ナイトクラブ火災（アメリカ、ロードアイランド州）	死者 100人
2003年２月18日	大邱地下鉄放火事件（韓国、大邱市）	死者 192人
2002年２月20日	列車火災事故（エジプト、カイロ市）	死者 373人
2002年１月27日	武器庫爆発火災事故（ナイジェリア、ラゴス市）	死者 1,100人以上
2000年12月25日	洛陽クリスマス火災（中国、河南省洛陽市）	死者 309人
2000年11月11日	ケーブルカー火災事故（オーストリア）	死者 155人
1996年３月18日	ケソン市ディスコ火災（フィリピン、ケソン市）	死者 162人
1995年12月23日	結婚式場テント火災（インド、ハリヤーナ州）	死者 400人以上
1995年10月28日	バクー地下鉄火災（アゼルバイジャン、バクー市）	死者 289人
1995年４月28日	大邱上仁洞ガス爆発事故（韓国、大邱市）	死者 102人
1994年12月８日	カラマイ市観劇会場火災（中国、新疆ウィグル自治区）	死者 325人
1994年11月27日	ダンスホール火災（中国、遼寧省阜新市）	死者 233人
1993年５月10日	バンコクおもちゃ工場（ケーダー社）火災（タイ、バンコク市）	死者 188人
1992年４月22日	グアダラハラ爆発事故（メキシコ、グアダラハラ市）	死者 206人
1987年12月20日	貨客船ドニャ・パス号衝突・炎上事故（フィリピン、ミンドロ島沖）	死者 1,575人以上（海運会社の発表では4,375人）
1982年11月３日	サラン峠トンネル火災（アフガニスタン）	死者 176人（一説には2,700人）
1978年８月19日	映画館放火事件（イラン、アーバーダーン市）	死者 470人以上
1978年７月11日	ロス・アルファケス大惨事（スペイン、カタルーニャ州）	死者 217人
1977年５月28日	サパークラブ火災（アメリカ、ケンタッキー州）	死者 164人
1974年２月１日	ジョエルマビル火災（ブラジル、サンパウロ市）	死者 227人
1973年11月29日	大洋デパート火災（日本、熊本市）	死者 104人
1972年５月13日	千日デパート火災（日本、大阪市）	死者 118人
1971年12月25日	ホテル「大然閣」火災（韓国、ソウル市）	死者 163人
1970年11月１日	クラブ火災（フランス、イゼール県）	死者 146人